

論文審査の要旨

|  |                |    |       |
|--|----------------|----|-------|
| 博士の専攻分野の名称   | 博 士 （ 教 育 学 ）  | 氏名 | 堤 理 英 |
| 学位授与の要件  | 学位規則第4条第①・2項該当 |    |       |
| <p>論 文 題 目</p> <p style="text-align: center;">A Study of Changes in Career Motivation of Japanese University English Teachers:<br/>Using the Life Story Method</p>   |                |    |       |
| <p>論文審査担当者</p> <p style="text-align: center;">主 査            教 授    深 澤 清 治<br/>           審査委員       教 授    築 道 和 明<br/>           審査委員       教 授    中 條 和 光</p>  |                |    |       |
| <p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本研究の目的は、日本人大学英語教員の職務モチベーションの構成要素とそのモチベーションの変容過程を明らかにし、大学英語教員の職務における効果的なモチベーションストラテジーを提示することである。英語教育における教師および教師教育に貢献することを目的とし、教師の成長・変容に焦点を当てた教師モチベーション研究を実施した。</p> <p>第1章では、本研究の背景と目的、日本の大学英語教育における現状と問題の所在、本論文の構成について述べた。今日のグローバル社会において、実践的な英語力の習得が不可欠となっている中で、大学英語教育は極めて重要な意味を持ち、英語教師の担う役割は増してきている。一方で、少子化や大学経営における困難など職場環境は様々な問題に直面している。このような状況を踏まえ、現職の大学英語教員の職務に関するモチベーションに焦点をあてた研究が、必要でありながら今日まで日本の高等教育において実施されていないことを指摘した。</p> <p>第2章では、英語教員モチベーションに関する先行研究の概観と本論文の研究課題について述べた。先行研究の概観において、教師モチベーション研究の諸側面については、教師モチベーション研究の必要性、教師モチベーションの内的要因・外的要因、教師モチベーションを高める要因、低める要因、教師モチベーションと学習者モチベーションの関連、教師モチベーションマネジメントにおけるストラテジーについて述べた。</p> <p>第3章では、日本人大学英語教員の職業満足度、価値観、職務に満足している点、不満に感じている点、理想と現実とのギャップ、教師モチベーションに影響を与える要因を特定した。職業満足に関しては、英語教師という職業には満足しているが、現在の職場での日々の職務に関して満足度が低めであることが明らかになった。また、専任職についている教師、特にテニユアトラックの職に就いている教師は、非常勤講師や契約講師より高い職業満足度を示したのに対し、非常勤講師や契約講師として勤務する教師の職業満足度、現在の職場における満足度は低かった。日本人大学英語教師が職務において重要だと感じている価値観は、主として学生との関係性や自己成長、自律、職務におけるやりがいを含む内的要因に帰する項目であり、内的要因は比較的満たされていることが明らかになった。逆に、職務における理想と現実とのギャップが大きかった項目は、ワークライフバランス、職の安定性などの外的要因であった。教師モチベーションに肯定的な影響を与える要因としては、教師の自律、学生に関する事項が</p> |                |    |       |

多く挙げられた。逆に、教師の自律の欠如、契約や雇用に関する事項は教師モチベーションに否定的な影響を与える要因であることがわかった。

第4章では、大学英語教員のキャリア全体を概観し、教師モチベーションがどのように変化していくのかを探求し、教師モチベーションが上昇あるいは下降した時、どのような出来事が起こったのか分析を行った。その結果、学生のモチベーション・興味関心・態度、研究活動における経済的援助・助成金、サバティカルを含む生涯学習として学びを得る機会が教師モチベーション上昇させる出来事として挙げられた。それに対してモチベーションを下降させる出来事としては、学生に関する事柄、ワークライフバランス、バーンアウト・無力感が主な要因となっていることが明らかになった。大学英語教員として生きる過程において、長期的視点でキャリアを概観する際、影響を与える要因は、キャリアにおける目標設定、環境要因、教師アイデンティティの3つに特定された。

第5章では、教師モチベーションを内的要因に関して維持向上させるのに効果的な教師モチベーションストラテジーを提案した。その結果、以下12の具体的なストラテジーの内容が提案された。1. リフレクティブティーチングの実践。2. 生涯学習の視点から学び続ける。3. 学生からの目に見える反応、目に見えない反応にも敏感である。4. 日々の教育実践を通して成功経験を積み重ねる。5. 現実的で実現可能な短期的目標、長期的目標を設定する。6. 直接教育活動に貢献できる、効果が目に見える研究に従事する。7. 快適な職務環境に身を置く。8. 同じ分野、専門など知的好奇心を共有できる人と積極的に関わりを持つ。9. 仕事以外で心から楽しめること、趣味などに日々関わる。10. ロールモデルとなるメンターを持つ。11. 国内あるいは海外ともに研究に関する興味関心を共有する研究者と共同研究を行う。12. モチベーションが上昇、下降することはキャリアにおける長期的視点から自然なことであると理解し受け入れる。

第6章では、本研究のまとめと研究の結果から示唆される点について述べ、最後に本研究における限界と今後の研究における展望が総括されている。

現在まで、日本の大学における英語教師の職務に関するモチベーション研究は管見の限り実施されていない。その中で、本論文の独創性は以下の3点にまとめられ、学術的及び教育的意義を評価することができる。

- (1) 大学英語教員の職務におけるモチベーションという極めて個人的で目に見えない心理的な要素に焦点をあて、その具体的な構成要素を明らかにした。
- (2) 日々教師たちが直面している困難、問題点、解決法をそれぞれのライフストーリーと共に彼らの直面する現実を丹念に描写し伝えることにより、大学英語教員という職業を通しそのキャリアを通した教師モチベーションの変化・変容の過程を概観した。
- (3) 英語教師モチベーションを向上、またさらに維持していく上でどのような方法が効果的であるのかを明らかにし、提案した。

以上の点から、本研究は、日本の大学英語教育において重要な教育的示唆を与え、今後の同様の研究を行う上で貴重な視点を提供するものである。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成29年2月16日